

地方都市における 新しい住環境価値を考える



■活動地域

北海道函館市

■活動期間

2015年4月～継続中

■活動体制

工学院大学 野澤研究室 星研究室／関西大学 岡研究室／芝浦工業大学 桑田研究室／千葉大学 秋田研究室／新潟大学 松井研究室

■活動キーワード

住環境価値／住まい方／地方都市／函館

■2018年度メンバー

B4 内野智貴

-活動経緯-

2015年度から始まった本プロジェクトは、2016年度から他大学も交えて、5大学6研究室の体制で活動を行っている。

これまでの利便性最優先の住環境の捉え方・考えから脱却し、これからの時代に求められる新しい居住の場・住まい方のあり様、住環境の捉え方を探っていく。また、次世代に向けた都市の全体像、そのための計画ツール、法制度のあり方等を提案することを目的として、研究を進めている。



-対象地の概要-

函館市は、1935年までは道内一人口が多かったが、1980年の345,165人をピークに人口が減少し始め、2015年では265,979人となり、現在は札幌市、旭川市に次いで3番目となり、「消滅可能性都市」になっている。

一方で、観光地として人気があり、ブランド総合研究所による地域ブランド調査では、2009年と2014年に1位を獲得している。

-昨年度までの活動-

2015年度は函館市の観光名所や中心市街地を中心に現地調査を行い、調査結果をまとめた。

2016年度からは科研費の助成を受け、国勢調査データや地理情報システム等を利用し、函館市市街地の基礎的調査と、調査する対象地の選定を行った。また、選定した対象地区の現地調査を行い、さらに市役所等へのヒアリング、対象地区住民へのアンケート調査を実施してきた。

2018年度の活動内容

今年度は、個別の研究としては、内野による日吉町の福祉コミュニティに関する調査・研究を実施した。

また、3月には、科研研究3ヶ年のまとめとして、参加全研究室の参加を得て、函館において公開研究会を開催して、市民(専門家・一般市民)への研究発表と意見交換を行った。

-個別研究テーマ-

内野智貴:「地方都市の住宅地における住環境の変化と課題に関する研究～函館市日吉町4丁目を対象として～」

-公開研究会-

2019年3月3日(日)13:30～16:30、函館コミュニティプラザ G スクエア多目的ホールにて開催した。配付資料として、これまでの成果物を収めた論文集を作成し、参加者に配付した。

研究会には、主催者側として研究グループの教員6人と院生・学生4人、そして地元等からの参加者24人を得て、会場はほぼ満席の状態であった。参加者は、長時間の研究発表に耳を傾け、活発なディスカッションが行われた。参加された方からたくさんの意見が寄せられて、これからの研究課題も見えてきたと言える。



「新しい住環境価値研究会」公開研究会

「函館の住環境価値を再考する」

2019年3月3日(日)13:30～16:30(予定)
開場は13:15です。

函館コミュニティプラザ
Gスクエア 多目的ホール

参加費：無料(定員30名/事前申込制/当日は先着順)

※できるだけ事前に下記にメールでお申し込み下さい。
事前申し込みがなくても参加可能ですが、定員に達した場合には、ご参加いただけない可能性があります。

【プログラム】(予定)

(報告とディスカッション その1)
函館のまちなか居住～その魅力と課題～

(報告とディスカッション その2)
函館の郊外居住～人口減少時代にどう対応するか～

(全体総括ディスカッション)
函館の住環境価値を再考する

「新しい住環境価値研究会」とは？

日本建築学会都市計画委員会傘下に設置された「新しい住環境の価値創造小委員会」(主宰:野澤 康/設置期間2013～17年度)での活動を継承し、さらに発展するために、この小委員会メンバーを中心として発足した研究会である。

2016～18年度に文部科学省科学研究費助成(基盤研究C)を受けて、「地方都市における居住の場・住む方に求める新たな住環境価値のあり方に関する研究」を、函館市を主な題材として進めてきている。

研究会メンバー
野澤 康※(主宰:工学院大学)、岡崎理子(関西大学)、秋田典子(千葉大学)、星 卓志(工学院大学)、桑田 仁(芝浦工業大学)、松井大輔※(新潟大学)
※印の2名は、函館出身の研究者である。

【申込み・問合せ先】

工学院大学建築学部
まちづくり学科 野澤 康
E-mail: nozawa@cc.kogakuin.ac.jp